

調査検討業務結果のまとめ

「サンゴ礁生態系保全状況に関する情報の収集整理」と「有識者へのアンケート調査」の結果に基づき調査検討業務結果の取りまとめを行った。活動は中間評価時から継続されていたため、(1)サンゴ礁生態系保全状況に関する情報の収集整理に関しては中間評価時と同じである。以上に基づき、議論すべき課題の抽出を行った。

1. 調査結果概要

(1) サンゴ礁生態系保全状況に関する情報の収集整理

- ① 各省庁や自治体からの報告をまとめた結果、現行動計画における取組は、重点課題 1：陸域に由来する赤土等の土砂及び栄養塩等への対策の推進（31 件）＞重点課題 3：地域の暮らしとサンゴ礁生態系のつながりの構築（21 件）＞重点課題 2：サンゴ礁生態系における持続可能なツーリズムの推進（12 件）であった。重点課題 2のうち「多言語対応の保全への理解を深める効果的なツールの開発・提供」に関しては、現行動計画内の「目指すべき姿の実現に向けて各主体が取り組む事項」として掲げている主体がなく、活動もなかった。
- ② 現行動計画で新たに報告された取組は合計で 29 件であった。内訳は、重点課題 1 が 7 件、重点課題 2 が 6 件、重点課題 3 が 12 件、その他が 4 件であった。
- ③ 活動を GIS 上で可視化し集計した結果、南西諸島においては、重点課題の活動が行われている地域の割合は、重点課題 1(41%)＞重点課題 3(15%)＞重点課題 2 (2%) の順であった。鹿児島以北の高緯度地域においては、活動地域が限られているものの、その地域において重点課題 1 から 3 がおおむね網羅されていた。
- ④ 2016 年夏の大規模白化により、活動とサンゴ被度変化の関係が不明となり、活動の効果は評価できなかった。

(2) 有識者へのアンケート調査

- ① 計画全体の総括として、設問「(5)1. 「地域社会と結びついたサンゴ礁生態系保全の基盤構築」を実現し、愛知目標 10 に貢献したか？」に関しては、3.4 点となり、「やや良化/進展」に近い「進展なし」との評価であった。
- ② 各重点課題の総括としては、重点課題 1 に関して、中間評価、最終評価ともに「やや良化/進展」であった。重点課題 2 に関して、評価が「進展なし」（中間評価）から「やや良化/進展」となった。重点課題 3 に関しては「進展なし」から変化しなかった。
- ③ 各課題に関しては、「進展なし」（中間評価）から「やや良化/進展」になったのは重点課題 1 に関して 1 項目、重点課題 2 に関して 2 項目、重点課題 3 に関しては 1 項目、その他に関しては 2 項目であり、全体的に中間評価時より進展が見られた。

④ 最も達成されていると評価された上位項目は、以下の通りとなった。

スコア	重点課題	番号	内容
4.1	1	(1)4.	赤土対策に関する農家等への普及啓発は進んだか？
4.1	1	(1)5.	赤土等の流出対策が特に必要な農地では、勾配修正や排水路の整備などの対策が進められているか？
4.0	2	(2)3.	持続可能な観光業を推進するために、観光事業者のみではなく漁業従事者、NGO、専門家などのさまざまな主体の参画のもと観光利用のルールや資源管理の仕組みづくりが進んだか？
3.9	1	(1)2.	農地などからの赤土等流出対策は進んだか？

⑤ 最も達成されていないと評価された下位項目は、以下の通りとなった。

スコア	重点課題	番号	内容
1.6	その他	(4)E.1.	気候変動によるサンゴ減少の影響（白化及びそれに伴う死滅）と比較して、総じて、サンゴ礁生態系の保全努力は十分効果があったか？
2.7	2	(2)5.	エコツーリズム推進法を踏まえ、「全体構想」の策定支援など、エコツーリズムを推進する地域に対する支援は十分であったか？
2.7	2	(2)8.	サンゴ礁生態系の重要性の認識を高めるために、学校を含めた地域コミュニティでの環境教育やパンフレットやホームページを通じた国民への広報活動など、主体への普及啓発活動は十分であったか？
2.9	2	(2)7.	特に優れたエコツーリズムの取組の表彰・紹介や全国セミナーの開催など、地域資源の活用方法や保全などに係る知見の蓄積と共有化は十分であったか？
2.9	その他	(4)B.4.	情報の収集及び発信の中心的役割を担う拠点となる機関の強化や人材育成、機関間のネットワーク形成は進んだか？

⑥ 環境省モデル事業はそれぞれ評価が高く、沖縄県等の事業とあわせて、活動が各項目のアンケートにおいて言及されており、これらが行動計画の進展に寄与していると考えられる。

2. 中間評価と今回の調査結果をふまえた今後の検討事項

中間評価時に加え、本業務で得られた結果から、以下の点を検討する必要があると考えられる。

- 全般的事項：目標を定めることが必要ではないか。特に観光に関する具体化が必要ではないか
- 全般的事項：評価に関する指標を定める必要がある。どこに対してどんな対策がどれだけ必要（目標）で、そのうちのどの程度対策が行われたか（達成度）という実施状況が不明である。また、その効果についても判断材料がない
- 情報収集：報告いただいた活動に対して、実際に行われている活動の情報とはギャップがあるように見受けられ、情報収集の強化が求められる。また、シートによる報告に加えて、実際行われていることを会議の場などで紹介していただくことは有意義であろう
- 進捗状況：現行動計画は旧行動計画から課題を絞って「重点課題」を設定したことにより、「重点課題」の評価が行いやすくなった。その一方で、旧行動計画において継続が必要と思われる課題に関しては「その他」として評価を継続したが、評価を継続できたのは全体の 6 割程度であった。今後も重点課題を状況にあわせて設定すると同時に継続性を考慮したフォローアップと評価が必要である
- 進捗状況：2016 年夏の大規模白化により、活動とサンゴ被度変化の関係が不明となり、活動の効果は評価できなかった。サンゴの回復には 10 年以上の時間がかかると思われ、地球規模変動による攪乱をさらに受ける可能性もあるため、活動の評価においては、より長期的なデータに基づいた評価が必要である
- 進捗状況：進展が見られた課題が増加した一方で、進展が限定的な課題が抽出された。これらに対して進展をうながす仕組みが必要である。
- モデル事業：モデル事業で得られた成果の積極的な広報、水平展開の検討や体制づくりに関するマニュアル等が必要である